

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲作情報（第2号）」について（送付）
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

稲・大豆作情報（第2号）

1. 情報田生育調査結果について

(1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	ヒノヒカリ (鳥栖市)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神埼市)
移植日(月日)	6月11日 (平年：6/10)	6月23日 (平年：6/20)	6月19日 (平年：6/21)	6月20日 (平年：6/21)
栽植密度(株/㎡)	15.7 (52.5株/坪)	18.5 (61.6株/坪)	18.8 (62.6株/坪)	16.8 (55.9株/坪)

(2) 調査結果（7月6日現在）

品種名	夢しずく	ヒノヒカリ	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	39.2	22.5	25.5	23.3
平年値(平年比)	47.9(82)	28.7(78)	31.0(82)	27.9(83)
茎数(本/㎡)	268	164	163	196
平年値(平年比)	284(94)	164(100)	146(112)	186(105)
葉齢(L)	8.3	6.6	6.8	7.1
平年値(平年比)	8.5(-0.2)	7.0(-0.4)	7.2(-0.4)	7.5(-0.4)
葉色(SPAD値)	42.7	40.4	40.3	39.2
平年値(平年比)	41.3(+1.4)	37.3(+3.0)	38.6(+1.7)	40.1(-0.9)

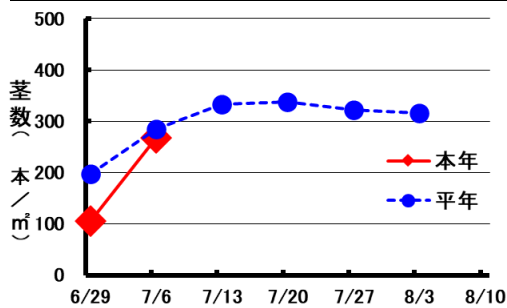


図1 夢しずく茎数の推移

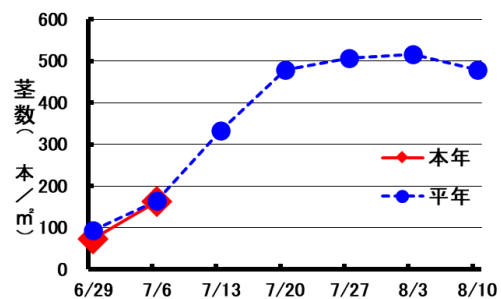


図2 ヒノヒカリ茎数の推移

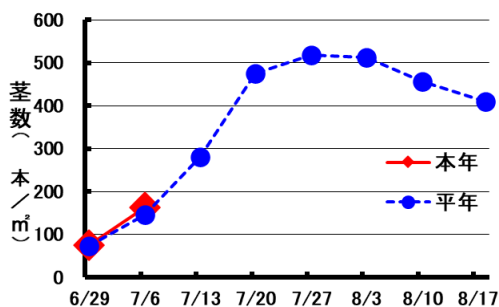


図3 さがびより茎数の推移

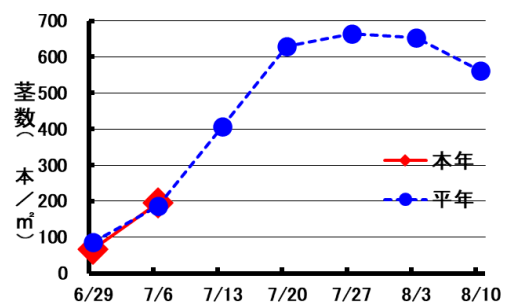


図4 ヒヨクモチ茎数の推移

2. 気象及び普通期水稻の生育概況について（7月8日現在）

（1）気象（7月1日～6日までの期間）

- 【平均気温】 平年より 3.5℃高い。
- 【日照時間】 日年比 136%と長い。
- 【降水量】 平年比 22%と少ない。

（2）生育概況

平年に比べ日照時間が多く推移したことから、いずれの品種も草丈は平年より低く、茎数は「夢しずく」が平年に比べ少なく、「ヒノヒカリ」で平年並、「さがびより」、「ヒヨクモチ」で平年に比べ多くなっている。

また、スクミリンゴガイによる食害が深水管理等の一部圃場に見られ、麦わら分解によるガスも発生している。

3. 普通期水稻の今後の管理について

（1）水管理

①「夢しずく」の水管理

- ・ 1株あたり茎数が18本未満の圃場では足跡に水か溜まる程度の浅水管理を継続する。
- ・ 移植が6月10～14日頃の圃場では、7月中旬頃から中干しの時期となる。
1株あたり茎数が18本以上確保できた圃場は落水し「中干し」を実施する。

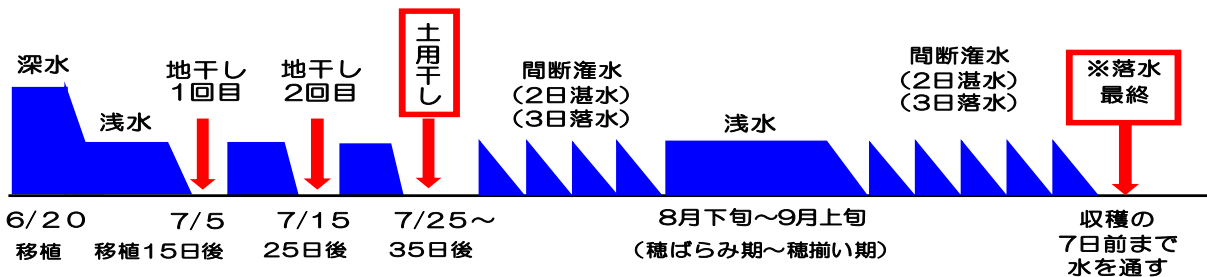
表1. 地帯別「夢しずく」の中干し時期（圃場の生育状況に合わせて実施しましょう）

地帯区分	中干しの時期	中干しの程度
山麓部～平坦部（排水良好田）	7月15日頃	弱め（土は1cm程度ヒビが入る程度）
平坦部（排水不良田）		強め（白乾が始まる程度）

※中干し後は、間断灌水（断水期間をやや長く行う）を行い株元の地固めに努めましょう。

②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」の水管理

- ・ 初期分けつ確保及びスクミリンゴガイの食害回避のため、浅水管理を基本に行う。



- ・ 1株あたり茎数が20本以上確保できた圃場は、下の表2を参考に落水し「中干し」を実施する。

表2. 品種毎の中干し時期（圃場の生育状況に合わせて実施しましょう）

品種名	中干しの時期	中干しの程度
「ヒノヒカリ」 「天使の詩」 「ヒヨクモチ」	7月20日～25日頃	やや強め 土に約1cmヒビが入る程度（白乾手前）
「さがびより」		弱め 土は黒く軽くヒビが入る程度

※排水不良田では、白乾が始まる程度のやや強めの中干しを行う。

～中干しの効果～

- 無効分けつの発生を抑制する（過繁茂防止、生育量の適正化）
- 田面を固める（収穫作業と麦播種作業の効率化）
- 土壌中に酸素を送り、根の活力UP、有害ガスの除去

～ 弱め ～
土は黒く軽くヒビが入る程度



～ やや強目 ～
土に約1cmヒビが入る程度



③

③麦わら等残渣のすき込みによるガスの発生への対策

- 他の圃場に比べ、生育が悪く葉色が薄い圃場では、麦わら等の有機物の分解に伴うガスの発生により土中の酸素が不足し、根の伸長と養分吸収が阻害されている恐れがある。
このような圃場では、今後も麦わら等の分解が進み、ガスの発生が多くなる事が考えられるため、落水（地干し）を1～2日程度行う。

(2) 追 肥

- 「ヒヨクモチ」は、間もなく中間追肥の時期を迎える。
元肥にL P肥料や元肥一発肥料等を使用した圃場以外では、下の表3を参考に圃場の生育状況に応じ、中間追肥を施用する。

表3. 「ヒヨクモチ」の中間追肥時期

品種名	移植時期	中間追肥の時期	施肥量の目安
ヒヨクモチ	6月18～20日	7月15～20日頃	地区暦に準じて行う

※元肥に有機肥料を使用した圃場や大豆跡は中間追肥を除く。

(3) 穂 肥

- 夢しずくは7月下旬頃から穂肥の施用時期を迎える。
必ず「穂肥診断」（葉色と幼穂長を確認）を実施し、下の表4を参考に穂肥を施用する。
- 葉緑素計（SPAD）で葉色40以上又は草丈80cm以上の圃場で穂肥は施用しない。

表4. 夢しずくの穂肥診断基準

幼穂形成始期草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	現物量(BB602)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a	山麓	平坦
73cm 以下	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1mm	3.0	20kg	15kg
	3.0～3.5	38 以下	18～20 日	2mm	3.0	20kg	15kg
	3.5～3.8	38～39		2mm	1.5～2.0		10kg
	3.8 以上	40 以上	18 日	2mm	1.0 以下		7kg
73～79cm	3.0～3.5	34 以下	18～20 日	2mm	1.5～2.0		10kg
	3.5～3.8	38～39	18～20 日	2mm	1.0		7kg
	3.8 以上	40 以上			施用しない		
80cm 以上	原則として施用しない						

表5. 穂肥時期の目安

移植時期	穂肥の目安（平年）	出穂期（目安）
6月10日	7月23～25日	8月14日前後
6月15日～	7月25～27日	8月16～17日

注1) 早すぎる穂肥 → 止葉が伸び、倒れやすく、籾数が多すぎて登熟が悪くなる
 遅すぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米の蛋白含量が高く食味が落ちる


注2) 多すぎる穂肥 → 倒れやすく、籾数が多く登熟が悪く、蛋白含量が高く食味が落ちる
 少なすぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米がやせて品質が落ちる

注3) 中干し直後に葉色が淡く草丈が低い圃場についても、中干しの乾土効果（土壌中の有機体窒素が分解によって水稻に吸収される形になる）により、急激に葉色が濃くなる場合があるため、圃場の状況に合わせて散布する。

(4) 病虫害防除について

①海外飛来性害虫

- ・7月8日現在、ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/23～25）が確認されている。
- ・平坦部では、ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）の寄生は確認できないが、移植時期や品種により状況は異なると考えられるため、発生状況を注視する。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター 

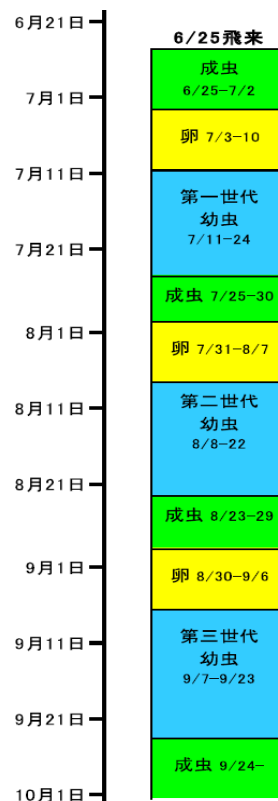


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第1版、2022年6月29日作成）

②いもち病

- ・本田で新たな病斑の発生が認められた場合は防除を検討する。
- ・補植用の苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する。

③スクミリンゴガイの被害について

- ・スクミリンゴガイによる食害が見られる圃場では、落水～浅水管理で活動を抑制するとともに、必要があれば薬剤防除を実施する。

(5) 除草作業

- 除草剤が散布できなかつた圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生が見られる。
- このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

表6. 残草の目立つ圃場での防除方法

使用例	除草剤名	剤型	使用時期	備考
ノビエの発生が多い圃場	クリンチャー1 粒剤	粒	移植後 7日～ル ¹ I 4L (但し、収穫30日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
	クリンチャーEW	液	移植後 20日～ル ¹ I 6L (但し、収穫30日前まで)	落水散布。展着剤加用する。
	ヒエクリーン1 粒剤	粒	移植後 15日～ル ¹ I 4L (但し、収穫45日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
広葉雑草	バサグラン粒剤	粒	移植後 15日～55日 (但し収穫60日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> • 落水～ごく浅く湛水散布。最低3日間 (浅水処理は5日間) 入落水しない。 • 処理後2日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。 • 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
	バサグラン液剤	液	移植後 15日～55日 (但し収穫50日前まで)	
ノビエと広葉雑草の両方	クリンチャーバスME 液剤	液	移植後 15日～ル ¹ I 5L (但し収穫50日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> • 落水～ごく浅く湛水散布。最低3日間 (浅水処理は5日間) 入落水しない。 • 処理後2日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。 • 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。 (展着剤加用しないこと)
	ハイカット1 粒剤	粒	移植後 15日～ル ¹ I 3.5L (但し、収穫60日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
	ワイドアタックSC	液	移植後 20日～ル ¹ I 6L	落水～ごく浅く湛水散布。 (展着剤加用しないこと)

注 1) 除草剤の再散布を行う場合は農薬の使用基準を遵守し、同一薬剤は避けて散布しましょう。

なお、再散布にあたっては最寄りのJA もしくは農業振興センターまでご相談ください。

注 2) 除草剤の散布に当たっては、剤により処理時の水管理が異なりますので注意してください

注 3) 薬剤は地区の暦参照 (掲載品目が異なるため)

4. 大豆の今後の管理について

1) 今後の天候について

- ・播種適期を迎えており、今後晴れの日が多くなる見込みです。圃場条件が整い次第すぐに播種できるように準備を行いましょ。
- ・安定・多収を目指すには「出芽・苗立ち」が重要であり、播種前後の天気予報には十分留意して播種して下さい。
- ・大豆は播種後2日間の大雨や浸水で発芽率が著しく低下する為、播種後2～3日以内に冠水するような大雨が予想される場合の播種は実施しないようにしましょう。

参考) 週間天気予報 (佐賀県：7月8日11時時点 佐賀地方气象台より)

9日(土)	10日(日)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)
						

2) 除草剤について

○播種前処理

- ・雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤(ラウンドアップ、プリグロックスなどは耕起前日でも枯殺可能)を散布して下さい。

- ・ラウンドアップは1日で吸収移行するため、散布後1時間後の降雨OK
- ・プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨OK

※稲への影響が大きいため周囲の水稻等への飛散がない様、十分注意してください!

○播種後処理

- ・播種直後に土壌処理剤を散布してください。なお、難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤が効果的です。

3) 圃場準備について

- ・荒起しは、なるべく播種前日～当日に行います。播種後に晴天が予想される場合には、乾燥による発芽率の低下が懸念されるほか、耕起後に雨が降ると水を多く含み、播種が暫くできなくなるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにしましょう。

4) 播種について

○種子消毒

- ・紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、**種子消毒**を必ず実施してください。

○播種量

- ・大豆の収量を確保するためには、**播種量**に気を付けて播種時期にあった栽植本数を確保する事が重要です。

播種期	栽植本数 (本/m ²)	栽植様式 (条間×株間×1株本数)	播種 (kg/10a)
7月1～10日	7～8本	75 × 30 × 2	2.5～3.0
7月11～20日	10本	75 × 25 × 2	3.0～3.5
7月21～31日	13本	75 × 20 × 2	4.0以上

○播種深度等

- ・播種後に降雨が多い予報の場合、2～3cmの浅めにし播種後の鎮圧は行いません。
- ・播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにし鎮圧を行います。
- ・1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くしましょう。
- ・播種作業には、麦用の「片培土板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができます。

令和4年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

三神農業振興センター

